

開催館名：日本モンキーセンター
企画展名：特別展「海とサルの交わる場所」

開催期間：2025年7月19日～11月30日



特別展全景



カニクイザルが食べる海洋生物の
近縁種を展示した水槽



ココリコ田中と学ぼう！サルと海のふしぎな関係



海とサルのゲストトーク

【企画展の内容・目的】

- 森林を主な進化の舞台としてきた霊長類（サルのなかま）にとって、海とのつながりはあまり深くないように思えます。しかし約 500 種にも多様化した霊長類の中には、海を上手に利用してくらしている種もいます。さらに、霊長類の多様化にとって海は欠かせないものでした。
- そこで、普段は「海」に関わる展示がほとんどない当園において、海とサルの意外な接点を紹介することで、来園者に意外性や新規性を感じながら「海」に関心をもっていただくことをねらいとしました。
- 関連事業では海やサルに関わる外部講師を招聘するほか、自ら取材に赴いたスタッフも実体験を語り、共感していただけるよう工夫しました。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2025 年 7 月 19 日～11 月 30 日
- 開催場所：日本モンキーセンター ビジターセンター内特別展示室
- 入場者数：27,341 人



日本モンキーセンター 外観



特別展会場 入口



特別展全体



水槽展示の一例（オニテナガエビ）

一見あまり関係のなさそうな「海」と「サル」。しかし霊長類の中には海を上手に利用してくらしている種もいます。さらに、霊長類の多様化にとって海は欠かせないものでした。この特別展では、海辺でくらすこともあるニホンザルやカニクイザルなどと海との関わりを紹介。また中南米やマダガスカルなどへ、海を越えて分布を広げた霊長類たちの適応放散にも目を向けました。そして特別展の最後には、海を越え海を利用してきた私たちのルーツにも思いを馳せました。当園で「海」を主題とした特別展をおこなうのは今回が初めてです。

特別展は 4 つの章で構成しました。第 1 章「海とニホンザル」では特別展のために取材をしたスタッフの体験談を交えたパネルや動画、第 2 章「海と世界のサル」ではカニクイザルが食べる海洋生物の近縁種の水槽展示、第 3 章「海を渡った霊長類たち」では当園が所蔵する剥製標本、第 4 章「人類進化と海」では野外民族博物館リトルワールドからの借用資料を中心に展示しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



第1章 海とニホンザル

四方を海に囲まれた日本には、日本固有種であるニホンザルが生息しています。中でも幸島（宮崎県）や金華山（宮城県）など、島に生息するニホンザルは群れの動向を追いやすく、恰好の調査対象となってきました。

そこで第1章では特別展の導入として、海辺の調査地で観察されてきたニホンザルと海の関係パネルや動画で紹介しました。10名以上のスタッフが手分けをして各地を取材し、集めた情報をもとに展示を構成しました。海をテーマに各地のニホンザルを比較してみると、例えば幸島（宮城県）では魚を食べますが他ではほぼ観察例がないことや、カサガイなどの貝類はほぼすべての海辺の調査地で食べられていることなど、海とサルに関わりにも共通性や多様性があることが見えてきました。



第2章 海と世界のサル

世界に目を向ければ、ニホンザルよりももっと海を積極的に利用しているサルもいます。雑食性の強いサルのなかまは、生息地内にアクセスしやすい海辺の環境があれば、採食場所として利用します。マカクのなかまや、オマキザルのなかまなどがそうです。その探索方法や食べ方は、種や地域によって特徴があるようです。採食場所としてではなく、夜の泊り場として水辺を利用するテングザルのような例もあります。

そこで第2章では各地の研究者の協力を得て、多様なサルと海との関わりを紹介しました。特にカニクイザルについては、文献をもとに採食品目の近縁種を水槽展示し、生きている姿を見ていただきました。磯遊び経験のある方がヒザラガイ類を食べることに驚かれていたり、巨大なオニテナガエビの存在感到圧倒されたりなど、生きている海洋生物が目の前にいるからこそ起こる会話や感動の声を多く耳にしました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。



第3章 海を渡った霊長類たち

もっとも古い時代の霊長類の化石はおもに北半球から発見されています。北半球から分布を広げた霊長類は、中南米やマダガスカルのように大きな海で隔てられた地に渡りました。また、東南アジアではマレー半島だけでなく、多くの島にも霊長類がくらしします。そこで第3章では当園が所蔵する多様な霊長類の剥製標本を展示し、海を渡った霊長類たちの多様化について解説しました。展示した剥製標本のほとんどが現在国内の動物園では見ることでできない種であったこともあり、霊長類への関心の高い大人の来園者にも海の存在の重要性を実感していただけたのではないかと思います。



第4章 人類進化と海

さまざまな霊長類と海との関係を見てきましたが、ヒトほど海を利用する霊長類はいないでしょう。特別展の最後には人類進化の視点から、人類の渡海と海産物利用について紹介しました。当園所蔵の化石人類頭骨レプリカ、野外民族博物館リトルワールドから借用した近海用力ヤックやアウトリガー付きの舟模型、鉾や釣針などを展示しました。

【来館者の声】

- 回答内容A「人だけでなく他の生き物たちにも影響するので、水辺を守ることは大切だと思いました。(55才女性)
- 回答内容B「日本は島国だからこそ、私たちはもっと海について知るべきだと思います。(中略)今回、私の好きな「海」との展示ということで関西から来ました。もっと色々なところで展示してほしいです！」(67才女性)
- 回答内容C「海を守ることが陸の生きものたちを守ることにもつながる。」(31才男性)
- 回答内容D「こんなかんじでにんげんがふねできたんだなと思いました」(8才女性)

2. 関連事業の内容

■特別講演会「ココリコ田中と学ぼう！サルと海のふしぎな関係」

【開催日時】2025年8月17日（日）10:30～12:00

【開催場所】日本モンキーセンター ビジターセンター ホール

【参加者数】91人

【実施内容・目的】

- 生物好きな芸人として知られる田中直樹氏をお招きし、京都水族館・館長、四国水族館・飼育展示部長などを歴任してきた当園園長の下村との対談をおこないました。適宜霊長類学を専門とする当園学芸員も登壇し、本特別展のテーマに沿った話題を深めました。
- ふだん動物園でおこなう講演会とは違った視点で、楽しく海と霊長類の話題をとり上げました。



ほぼ満席となった会場



田中さんと当園園長のトーク

田中直樹さんの幼少期の箕面のサルとの思い出話、皮膚毒をもつハコフグを食べるサルの話、MSC アンバサダーとしての活動など多様な話題で、参加者との交流も交えながら、楽しく海への関心を深めることができました。通常の学芸員の解説では聞き流れてしまうような話題でも、田中さんが大きなリアクションを交えて盛り上げてくださることで、参加者の心に残ったのではないかと思います。

【参加者の声】

○回答内容 A 「詳しい方同志の話は面白いですね。海、水辺、サル、色々と結びついてよかったです。安易に専門家に答えを求めず、自分なりの意見を述べてから話を振る田中さんの真摯な姿に感動しました。」（44 才男性）

○回答内容 B 「元々海が大好きなので、さらに好きになり、サルにも影響を与えるということも知り、森も海も守っていかなければいけないな～と思いました。（以下略）」（51 才女性）

○回答内容 C 「田中さんがアンバサダーをしているラベルがついた食品を購入しようと思います！」（28 才男性）

■海とサルのゲストトーク

【開催日時】2025年9月21日(日)、10月19日(日)、10月26日(日)、
11月16日(日)、11月30日(日) 11:00～11:45

【開催場所】日本モンキーセンター ビジターセンター ホール

【参加者数】合計 147人

【実施内容・目的】

- 霊長類の海産物利用や人類の渡海など、本特別展に関わるテーマで研究者を招聘し、気軽なサロン形式で来園者と交流していただきました。
- テレビやインターネットではなく、直接研究者と接する機会は来園者にとって貴重です。海を知り関心を高めることはもちろん、研究者が海に向きあう姿勢を見ることで、海に関する研究への共感や応援する気持ちを喚起できると期待されます。



9月21日(日) 「川と生きる上高地のニホンザル」



10月19日(日) 「下北半島のサルー自然がほほえむとき」





10月26日(日)「海とサル:カニクイザルの新天地適應能力」



11月16日(日)「水中考古学からわかる船の進化の歴史:古代エジプト～大航海時代」



11月30日(日)「島に住むニホンザル」

毎回異なるテーマで各分野の専門家を招きお話しいただいた。来園者の中には全5回すべてに参加した方もいらっしゃり、前回のトークで学んだことと比較した質問が出るなど、学びが深まっていることを感じた。また、特に若手の研究者には今後の研究に期待し応援するような感想も聞かれ、目的としていた「海に関する研究への共感や応援する気持ちの喚起」も達成できたと思う。

【来館者の声】

- 回答内容A「貝を食べるサルにとっても海は食糧庫だからとても大事で、人間だけでなく、いろんな動物にとっても大切な自然。」(20才女性)
- 回答内容C「海がずっとキレイだといいと感じた。」(8才女性)

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

【事業全体のまとめ】

サルと海の関係を紹介したいという企画は以前からありましたが、情報量の面でも資金の面でもなかなか実現できずにいました。そのような中、今回の支援をいただき、水槽の設置や資料の借用展示、多様な関連事業の実施など、通常の予算では実施できないような展示や企画を実現することができました。

特別展の制作や関連事業実施の直接的な費用だけでなく、事前取材のための費用もご支援いただけたことは、私たちスタッフ自身が海について学ぶ機会につながりました。今回の展示はもちろんのこと、展示以外での情報発信や今後の活動にも、今回の取材や展示制作で得た海の学びを活かすことができるでしょう。

海洋保全に関する展示はそれほど多くなかったにもかかわらず、アンケートを見ると多くの来園者が「海を守りたい」「海は人間だけでなく多様な生物の拠り所である」といった記述をしていました。森のイメージが強いサルと、海との意外な関係を紹介することで、来園者が自然に、サルの保全から森林保全へ、そして海の保全へと意識を向けることができたのではないかと推察しています。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 野外民族博物館リトルワールド	民俗資料の借用
2.	
3.	
4.	
5.	

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 中日新聞	
2. 読売新聞	
3. NHK 名古屋	
4. 子供の科学	
5.	

以上